

日比谷図書文化館は、図書館機能を核とした複合施設です。その運営にあたり「四つの機能」を策定し、それぞれを相互に連動させることにより「知の拠点」となることを目指しています。

1. 図書館機能

日比谷図書文化館の中核をなす機能であり、旧都立日比谷図書館の歴史と伝統を継承しつつ、日比谷、霞が関、有楽町などの立地条件からくるビジネスパーソンのためのセカンドオフィス機能と上質な調査・読書環境を提供するための各種サービスを実施しています。

2. ミュージアム機能

1階の常設展示室と特別展示室の二つの大きな展示室がこの機能の中心です。常設展示室では、「環境・人間・都市」をテーマに千代田の歴史を各種資料や映像で紹介しています。また、特別展示室では、区の歴史、文化等にかかわる調査研究で得られた成果を紹介する企画展示や文化、芸術などさまざまなテーマの企画展示を開催し、展示にあわせ講演会などの各種イベントも実施しています。

3. 文化活動・交流機能

個人および各種グループ、NPOなどによる館内資料や情報を活用する活動の拠点を提供し、新たな地域文化の創出拠点となることを目指しています。

「特別研究室」では、区立図書館の貴重なコレクションを自由に閲覧するとともに、利用者同士の交流を通じた新たな発見や創造の場を提供しています。さらに、交流支援のためのスペースを設け、各種研究グループなどの交流の促進を目指しています。

また、区の文化財事務室が事務局を務める千代田区内の美術館、博物館の交流組織「千代田区ミュージアム連絡会」の運営に協力しています。

4. アカデミー機能

「図書館機能」「ミュージアム機能」「文化活動・交流機能」の三つの機能をつなぐ役割が「アカデミー機能」です。館内の施設を利用した各種講演会、セミナー、ワークショップなど利用者の参画を含めた多彩なプログラムの展開を目指しています。その中で当館の自主事業および共催事業を「日比谷カレッジ」と名付け、積極的に展開しています。

○「日比谷カレッジ」の展開

「日比谷カレッジ」は下記の五つのカテゴリー、二つのスタイルを基本に講座、セミナー等を展開しています。

〈五つのカテゴリー〉

- ①江戸・東京 ②本 ③スキルアップ ④芸術 ⑤センスアップ

〈二つのスタイル〉

- ①講義型 ②ワークショップ型

各講座等は指定管理者が主催する“自主講座”と外部の団体等との“共催講座”の二種類の形で実施しています。“自主講座”ではコンソーシアム各社の強みを生かした企画を実施するとともに、“共催講座”では外部の頭脳を導入し、多彩なラインアップの企画を展開しています。

「日比谷カレッジ」の各講座等では講師の推薦図書や講義の関連図書をリストアップし資料として配布するほか、会場では館所蔵本の展示をしています。図書フロアでは日比谷カレッジコーナーを設け関連図書を陳列し日比谷カレッジへ

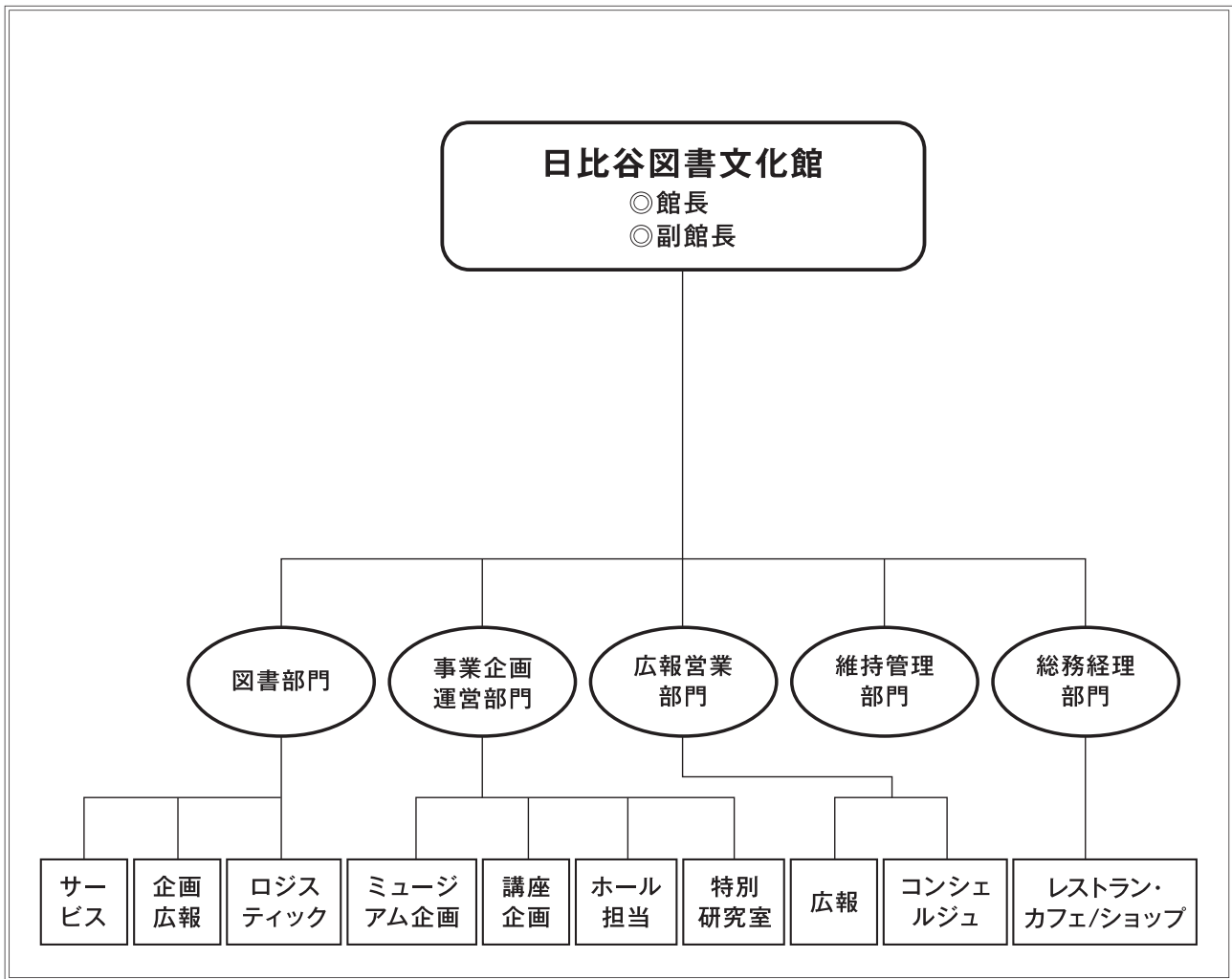


日比谷カレッジ ロゴマーク

の参加および講座参加者の館内回遊を誘導するよう工夫しています。さらに1階のショップでは関連図書の陳列販売も行い参加者の利便を図っています。

II-2 「組織・運営」

【組織図】



平成27年3月末現在

【運営】

千代田区立日比谷図書文化館は指定管理者制度により下記の指定管理者が管理運営を行っています。

指定管理者団体：日比谷ルネッサンスグループ（指定期間：平成23年9月1日～平成29年3月31日）

代表者：株式会社 小学館集英社プロダクション

構成員：大日本印刷 株式会社

：株式会社 シェアード・ビジョン

：大星ビル管理 株式会社

：株式会社 図書館流通センター